

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市幸町南児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク	
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和4年度 11,242人(前年度比 138.0%) ・令和3年度 8,149人 ・令和2年度 10,302人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 27,476千円 (27,735千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》
<p>幸町南児童館では「あふれる笑顔 わくわくじどうかん」を目標に設定し、乳幼児親子や児童クラブ児童が安心して楽しく過ごせる児童館運営に取り組んできた。年度前半は新型コロナウイルス感染症の影響で中止を余儀なくされた行事もあったが、規制緩和にともない、徐々に運営が改善されていった。乳幼児保護者の受け入れは午前中のみから全日に変更され、自由来館される親子が増加した。来館する方々に安心して児童館を利用してもらえるように、職員一人一人がパペットを用意し、笑顔でお迎え・お見送りをしてきた。来館された方々やお子様も自然と明るい顔になり、ゆったりと過ごされていた。子育て支援クラブ「こうなん」とタイアップした「寝相アート」は大好評で、アンケートには「毎月開催してほしい」という要望もあった。</p> <p>今年度はコミ・カンまつりも復活し、地域の皆様とともにお祭りを楽しむことができた。団体全体で取り組んだオンラインによる「あそびんピック」は子供たちに新たな目標を与えるとともに、連帯感を生み出すきっかけとなった。</p> <p>10月に入ってからは、小中学生の自由来館も再開され、クラブ児童と一緒に汗を流して遊んでいる。職場体験を機に中学生の自由来館者もあり、小学生との交流や友達との運動を楽しんでいる。日常に変化とわくわく感を与える各種行事は、職員によって工夫・改善・展開の再構築が行われ、楽しさを生み出す原動力となっている。利用者アンケートの結果は予想以上に好成績であった。コロナに惑わされず普通の運営ができるようになったことはうれしい限りである。次年度も「あふれる笑顔 わくわくじどうかん」を目標に設定し、成果の認められた実践には継続して取り組み、変化も加えながら幸町南児童館の持ち味を生かした館運営に取り組んでいきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、「プチはッピーサウス」として、上学年がメンバー登録をして遊びの年間計画を立て、創作活動や季節のイベント、運動遊び等多彩な内容で定期的で開催した。また、「コミカンまつり」のゲームの内容やルール、児童館でのドッチボール大会のルールを決める等、子どもの意見を様々な活動の中に反映させることで、自分で考えて行動できる力を育む支援に努めている。中高生世代を対象とした「はッピーサウス」を10月以降は毎日実施し、バドミントンや卓球等の用具や場所を専有できる環境を整える等、中高生世代への支援に努めたことで利用数も増加しており、放課後の子ども達の居場所として定着している。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、「はっぴいひろば」を土曜日も終日開催して利用しやすい環境作りに努めている。自由参加の「よちよちドロップ」や登録制の「さいわいくんタイム」では、親子の触れ合い遊びや工作、季節の行事等、多彩な内容で開催し、乳幼児の遊びと保護者同士の交流の場を提供している。「ほっとカフェ」は、のびすく宮城野の子育て相談員の協力を得て、前半は親子遊びや季節の工作を楽しみ、後半で相談会を開催している。相談会は保護者の要望に合わせて集団や個別で実施する等保護者の立場に立った支援に努め、地域の中で安心して子育てができる環境作りを行っている。</p> <p>地域交流推進事業においては、幸町赤十字奉仕団との連携で、「非常時のクッキング教室」を実施し、災害時の多様な対応について知る機会となった。宮城野障害者福祉センターの協力を得て、「すずめ踊りを踊ろう」で取り組んだ踊りを披露する場を設けたり、「ポッチャ交流会」を実施する等地域との交流を広げ、子どもが地域と関わりながら育つ環境作りに努めている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、職員のシフトでフリーの職員を作り、見守りを複数にしている。また、対応が必要な時も複数の職員で聞き取る等、一人一人と丁寧に関わり支援している。毎年子ども達から出た「ふわふわ言葉・チクチク言葉」を可視化して、共有する等児童館全体で言語環境を整えるという目標のもと支援を行い、子どもの健やかな育ちを促している。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課